

2026年度課題別研修「持続可能な自然資源管理を通じた自然共生社会の構築」 に係る参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構北陸センター（以下、「JICA 北陸」という。）は、以下の業務について、参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、開発途上国の自然資源管理や地域振興に関わる中核人材に対し、日本の環境政策及び制度の理解や北陸地域の地域振興の事例研究を通じて、自国での持続可能な自然資源管理を通じた自然共生社会構築に係る政策立案への実践的知見を獲得することを目的とした研修を行うものです。

本業務の遂行にあたっては、以下の「2 応募資格」を満たし、本件業務を適切に実施し得る要件を備える特定者を契約の相手先として、JICA 所定の基準に基づき経費を積算した上で契約を締結する予定ですが、特定者以外の者で応募資格を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

1 業務内容

- (1) 業務名：2026年度課題別研修「持続可能な自然資源管理を通じた自然共生社会の構築」に係る研修委託契約
- (2) 案件概要：別紙2「研修委託業務概要」のとおり
- (3) 実施期間：2026年8月20日～2026年9月8日（予定）
- (4) 契約履行期間：2026年7月中旬～2026年10月下旬（予定）
※ 事前準備期間及び事後整理期間を含みます。
- (5) 実施形態：本邦プログラム（来日）

2 応募資格

- (1) 個別要件：自然資源管理及び地域振興に係る開発途上地域向けの人材育成経験を有していること。また、研修を実施する上で必要な関係機関との人的ネットワークを有していること。
- (2) 基本的要件：
 - 1) 公示日において、令和07・08・09年度全省庁統一資格の競争参加資格（以下、「全省庁統一資格」という。）を有する者。又は、当機構の審査により同等の資格を有すると認められた者。
 - 2) 会社更生法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、参加意思確認書を提出する資格がありません。

- 3) 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」(平成20年10月1日規程(調)第42号)に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていないこと。具体的には以下のとおり扱います。
- ア. 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。
 - イ. 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受け付けます。
- 4) 競争から反社会的勢力を排除するため、参加意思確認書を提出しようとする者(以下、「提出者」という。)は、以下のいずれにも該当しないこと、及び当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約していただきます。具体的には、参加意思確認書の提出をもって、誓約したものとします。
- なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加資格を無効とします。
- ア. 提出者の役員等(提出者が個人である場合にはその者を、提出者が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。)が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等(各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程(平成24年規程(総)第25号)に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。)である。
 - イ. 役員等が暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
 - ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。
 - エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
 - オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
 - カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
 - キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
 - ク. その他、提出者が東京都暴力団排除条例(平成23年東京都条例第54号)又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。
- 5) 法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)(平成26年12月11日特定個人情報保護委員会)」に基づき、個人情報

及び特定個人情報等（※1）を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。

（中小規模事業者（※2）については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。）

- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

（※1）特定個人情報等とは個人番号（マイナンバー）及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

（※2）「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野（金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野）の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

（3） その他の要件：

- 1) 本研修委託業務契約は、2026年度に実施する計1回の研修コース全体を対象とする。
- 2) 研修員への指導・助言に必要な当該分野に関する専門性を備えた人材を有していること。
- 3) 業務執行体制に関する要件
 - ア. 業務を統括するための業務総括者を選任し、機構担当職員と密接な連絡を保ちつつ、研修業務が円滑に進むような体制を構築すること。
 - イ. 過去海外或いは国内の別なく、当該分野における人材育成或いは研修事業の実績を有し、本業務の遂行に確実な履行体制を有していること。

3 手続きのスケジュール

(1) 参加意思確認書の提出	提出期間	2026年3月27日(金) 正午
	提出場所	JICA 北陸 業務課
	提出書類	参加意思確認書、応募要件に該当する全省庁統一資格を有していない者は、参加意思確認書に記載の提出資料一式(写し可)
	提出方法	メール 送付先： jicahric_kccp@jica.go.jp 下記欄外の「メール送信の際の留意点」を参照の上、提出期限必着で送信。
(2) 審査結果の通知	通知日	2026年4月2日(木)
	通知方法	メール
(3) 審査結果についての理由請求	請求場所	JICA 北陸 業務課
	請求方法	メール 送付先は(1)に同じ
	請求締切日	2026年4月6日(月)
	回答予定日	2026年4月10日(金)
	回答方法	メール

4 その他

- (1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等の提出書類は無効とします。
- (2) 参加意思確認書等の提出書類の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。
- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等の提出書類を、その審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書等の提出書類の差し替え、及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。(上記3(3)を参照ください。)
- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名による企画競争若しくは指名競争入札を行います。その場合の手続き詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して連絡します。
- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。
- (9) 手続きにおいて使用する言語及び通貨：日本語及び日本通貨に限ります。
- (10) 契約保証金：免除します。
- (11) 共同企業体：共同企業体の結成を認めます。ただし、共同企業体を構成す

る社、又は代表者及び構成員全員が、上記２（１）（２）の応募資格を満たす必要があります。共同企業体を結成する場合は、「共同企業体結成届」（様式はありません。）を作成し、「参加意思確認書」に添付してください。結成届への代表者印及び構成員すべての社の社印は省略可とします。

以 上

2026年度課題別研修「持続可能な自然資源管理を通じた自然共生社会の構築」
研修委託契約 業務概要

1. 研修コース概要

(1) 研修コース名：持続可能な自然資源管理を通じた自然共生社会の構築

(2) 技術研修期間（予定）

【来日研修】2026年8月21日（金）～2026年9月7日（土）

※遠隔研修の実施については、契約相手方と協議の上決定します。

(3) 研修員（予定）

1) 定員：3名（応募状況や選考結果により増減の可能性あり）

2) 研修対象国（人数）：

カメルーン（1）、モーリシャス（1）、モンテネグロ（1）

3) 研修対象組織・対象者：自然資源管理や地域振興に関わる中央及び地方自治体の行政官、関係団体職員

(4) 研修使用言語：英語

(5) 研修の背景・目的

人々の生活や経済、社会は、豊かな自然環境から様々な恩恵（生態系サービス）を享受することで成り立ってきたが、近年、人間活動の急激な増大が、大規模かつ急激な自然環境の劣化を引き起こし、生物多様性の損失等を通して、我々の生活にも様々な影響を及ぼしている。自然環境保全の必要性が叫ばれる中、人間と自然環境との相互関係によって形成されてきた里山のような、二次的自然地域の持続可能な維持・再構築が注目され、2010年に環境省と国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）が「自然共生社会の実現」を目指す「SATOYAMA イニシアティブ」を共同提唱した。日本の環境政策においても里山里海の知見を再評価し、森里川海のつながりや地域の伝統文化を活かした自然資源の持続的な活用を推進している。北陸地域においても各地で自然資源を活かした地域振興が行われており、中でも能登の里山里海」は世界農業遺産に認定され、国内外から評価されている。一方で、過疎化の進行や震災の影響により、里山里海の継承が危機的状況であり、環境保全の観点だけでなく、経済や社会課題の解決も含めた統合的アプローチが必要とされている。

本研修では、日本の環境政策及び制度の理解や北陸地域の地域振興の事例

研究を通じて、自国の自然資源管理及び地域振興における課題解決に向けた、実践的知見を獲得することを目的とする。

(6) 案件目標

自国での持続可能な自然資源管理を通じた自然共生社会構築に係る政策立案への実践的知見が獲得される。

(7) 単元目標 (アウトプット)

- 1) 自国の自然資源管理及び地域振興の現状を整理し、課題が明確になる。
- 2) 日本の国や地方自治体における環境政策や制度について理解する。
- 3) 北陸地域における自然資源を活用した地域振興の事例研究を通じて、その計画策定や実施体制の構築、評価手法等のプロセスを理解する。
- 4) 帰国後に活用できる支援制度やパートナーシップについて理解する。
- 5) プログラムを通じて得た知見を踏まえ、自国の課題解決に向けたアクションプランが作成される。

※単元目標は契約相手方と協議の上最終的に決定します。

(8) 研修構成・内容

単元 目標	想定される研修項目
1	1. 過年度参加者の実践報告会への参加 2. 事前課題作成 (担当業務における自然資源管理や地域振興への関わり、及び自身の課題意識)
2	・日本の国や地方自治体における環境政策や制度 (地域循環共生圏、生物多様性国家/地域戦略等) に関する講義及び関係者との討議
3	・自然資源を活用した地域振興の事例 (生物多様性の保全・再生にむけた農林水産業、エネルギーの地産地消、ローカル SDGs 事業創出に向けた人材育成等) の研究及び関係者との意見交換 ・震災復興に取り組む地域・団体への視察及び意見交換
4	・SATOYAMA イニシアティブなどの国際的枠組みやパートナーシップに関する講義及び関係者との討議
5	・研修における気づき及び学びについての振り返り及び討議 ・アクションプラン作成指導、発表、意見交換

1) 当機構が実施するプログラム

ア. 来日ブリーフィング (滞在諸手続き) : 来日翌営業日 10:00-11:00

受入時事務手続き、滞在諸手当の支給手続き等についての説明を、機構が JICA 東京センターで実施する。

イ. 評価会、閉講式：帰国日前日（1.5 時間程度）

技術研修最終日に実施する評価会では質問票の集計結果を使用し、本研修の評価を関係者間（研修員及び研修受託機関、JICA）で行う。閉講式では、関係者からの挨拶のほか、研修員に対して研修修了の証明として修了証書を授与する。

2. 委託業務の内容

(1) 契約履行期間（予定）

2026 年 7 月中旬～2026 年 10 月下旬

※この期間には、事前準備・事後整理期間を含みます。

(2) 業務の概要

本研修業務を受託した法人等は、各研修員が上記「1. 研修コース概要」

(6) 案件目標及び(7) 単元目標を達成できるよう、(8) 研修内容に沿って、以下に示す業務を行う。

(3) 詳細

- 1) 研修日程調整及び研修詳細計画書の様式を用いた日程案の作成
- 2) 講師・見学先・実習先の選定
- 3) 講義依頼、講師派遣等依頼及び教材作成依頼文書の作成・発信
- 4) 教材の複製や翻訳についての適法利用の確認
- 5) 講師・見学先への連絡・確認
- 6) JICA、省庁、他関係先等との調整・確認
- 7) 講義室・会場等の手配
- 8) 使用資機材の手配
- 9) テキストの選定と準備（翻訳・印刷業務含む）
- 10) 講師への参考資料（テキスト等）の送付
- 11) 講師からの原稿等の取付、配布等の調整、教材利用許諾範囲の確認及び JICA への報告
- 12) 講師・見学先への手配結果の報告
- 13) 研修監理員との連絡調整
- 14) プログラム・オリエンテーションの実施
- 15) 研修員の技術レベルの把握
- 16) 研修員作成の技術レポート等の評価
- 17) 研修員からの技術的質問への回答
- 18) 研修旅行同行依頼文書の作成・発信
- 19) 評価会、技術討論会（各種レポート発表会含む）の準備、出席

- 20) 閉講式実施補佐
- 21) 研修監理員からの報告聴取
- 22) 講義・見学謝金支払い、明細書送付を含む諸経費支払い手続き
- 23) 業務完了報告書作成、経費精算報告書作成
- 24) 関係機関への礼状の準備・発信、資材資料返却

(4) 研修受託上の工夫

日本の里山里海に基づく環境政策や制度の概要を全体的に理解する内容とし、自然資源管理や地域振興における新たな潮流等も取り入れながら実施することが求められる。また、単なる講義だけでなく、研修員相互の意見交換、グループディスカッション、演習を取り入れて双方向の議論を行い、研修員が研修成果を自国で実務的に活用できるようにすることが求められる。

3. 留意事項

- (1) 当機構は、本研修コース実施にあたって英語－日本語の逐次通訳等を行う研修監理員を1名配置予定です。研修監理員は、JICAが実施する研修員受入事業において、JICA、研修員及び研修実施機関の三者の間に立ち、当該言語を使用しつつ（通訳）、研修員の研修理解を促進し、研修効果を高め、研修進捗状況を現場で確認する等、研修コースでの現場調整を行う人材です。JICAは登録された研修監理員の中から、研修コースごとに研修コースの特性等を勘案し、諸条件を提示して個別に業務を発注します（委任契約）。
- (2) 本業務概要は予定段階のもので、詳細については変更となる可能性があります。
- (3) 研修員受入事業及び研修委託契約の概要を含む研修委託契約の各種ガイドライン、契約書等については、以下 JICA HP を参照願います。

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html

以 上